



第3戦 たかのこのホテル SUZUKA GT 300KM RACE

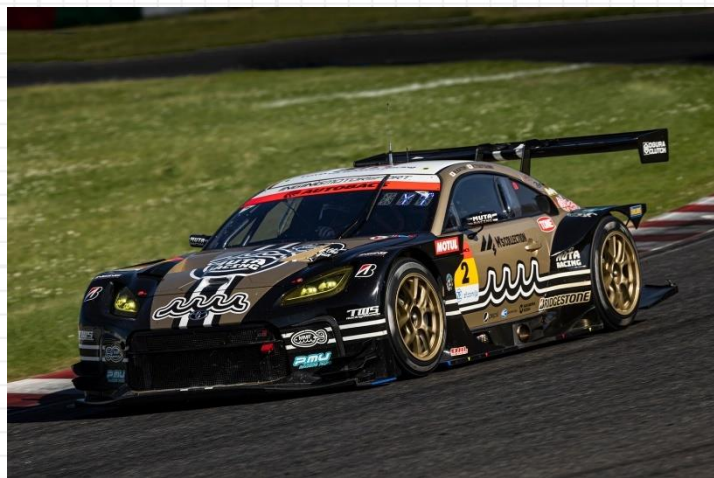
鈴鹿サーキット

決勝 5月29日(日)

天候:晴れ コース状況:ドライ

2022年SUPER GTシリーズ第3戦は、5月29日に鈴鹿サーキットにおいて300kmの決勝レースが行われた。2万1,000人のファンが1年ぶりのGTレースを楽しもうと朝早くからサーキットを訪れた。5月というのに気温は32℃まで上昇し、まるで真夏の気候となり、タイヤには厳しい展開となった。

決勝：14位



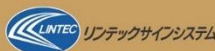
決勝レースの前、13時10分から20分間のウォームアップ走行が行われたが、muta Racing GR86 GTはスタート担当の加藤が2分1秒796とトップとは0.994秒差の10番手につけ、決勝に期待がかかった。セッションは11分が経過した時点で、1台のGR86 GTがクラッシュ。赤旗が掲出され中断となり、そのままセッションは終了となった。

ウォームアップ走行のクラッシュのためにガードレールの修復工事が行われたこともあり、決勝レースは10分遅れで進行することになった。気温32℃、路面温度47℃の14時40分に2周のフォーメーションラップが始まり、14時47分にグリーンランプが点灯しレースはスタートした。12番グリッドからスタートを担当した加藤は順位を守り周回を重ねた。9周目に日立Astemoシケインでクラッシュした車両がありセーフティカー(SC)ランとなった。隊列を組み直し13周完了の時点でリスタート。加藤はチームの予定どおり16周でピットインして堤に交代した。

早めにピットインしたこともあり堤は大きく順位を落としたが、他チームがピットインをすると徐々にポジションを上げ、21周目には16番手となった。レース中盤には96号車RC F、4号車メルセデスや55号車NSXに挟まれた14番手争いを展開。しかし33周目には55号車と4号車にかわされ再び16番手となるなどペースが上がらない苦しい展開となった。

36周目には2台の車両のアクシデントによりこの日2回目のSCとなった。40周完了でリスタートとなったが、堤は粘り強く最後まで走り14位でフィニッシュ。トップ車両と同一ラップで、チームポイント3点を追加した。

第4戦は2か月の長いインターバルを挟み8月6～7日に富士スピードウェイにおいて450kmレースとして開催される予定。





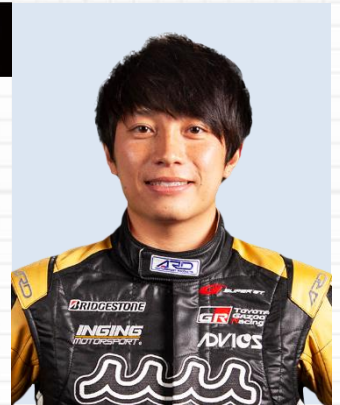
©GTA

ドライバー 加藤 寛規

「タイヤ選択はうまくいきましたが、決勝では想定していたより路面温度が大きく上がり苦しい展開になってしまいました。スタート直後から途中までは余裕があり前の車両を抜けるかなと思いましたが、しばらくすると厳しくなりました。戦略的に僕は短めで優威に交代し、前が空いたところでペースを上げて走ろうとしましたが、タイヤは厳しかったですね。次は富士、鈴鹿と長くて暑いレースが続きますが、ちゃんとしたデータも取れたし前進しています。シリーズ中盤も引き続き頑張ります」

ドライバー 堤 優威

「出て行って最初の5ラップぐらいは良い感じで走れましたが、そこからタイヤがきつくなり後ろから集団が来てそれらを防げなくてかなりきついレース展開になりました。持ち込みのセッティングは外しましたが、いろいろと試して予選は良かったので、あとは決勝だけ。今日は予選順位がどうこうということではなく、タイヤがつかったです。あとかなり暑かったです。タイヤの選択とセッティングをちゃんとすればいけるかなと思うので、今後もさらに頑張りたいですね」



©GTA



チーフエンジニア 渡邊 信太郎

「地味に終わりました。今回はテストをしたことがないタイヤでしたし、車の方のセッティングも合わせ込めてなかったのが、走り始めて10周を超えたあたりから一気にドロップしてそこからタイムが上がらず、1周で1秒離されるという展開でポイント圏内に入るのも厳しかったですね。第2スティント用のタイヤもドライバーに聞きながら内圧調整をしたのですが、この結果はブリヂストンさんがまとめてくれると思うので、それを次に生かせるようにしたいと思います。良い方向に向くようにやって、次は確実にレースをしていい結果を残せるようにします」

